

Hello! FUJISEI

No.88

多くの人になんらかの不安や悩みを抱えています。その内容は時代の移り変わりとともに変化しています。「平成23年版 厚生労働白書」から「日常生活での悩みや不安」についてみてみましょう。

「悩みや不安を感じている」人の割合は1958年では3割程度、1959(昭和34)年から1964(昭和39)年、1981(昭和56)年から1985(昭和60)年

不安や悩みも時代とともに変化

急速に高齢化が進み 老後への不安高まる

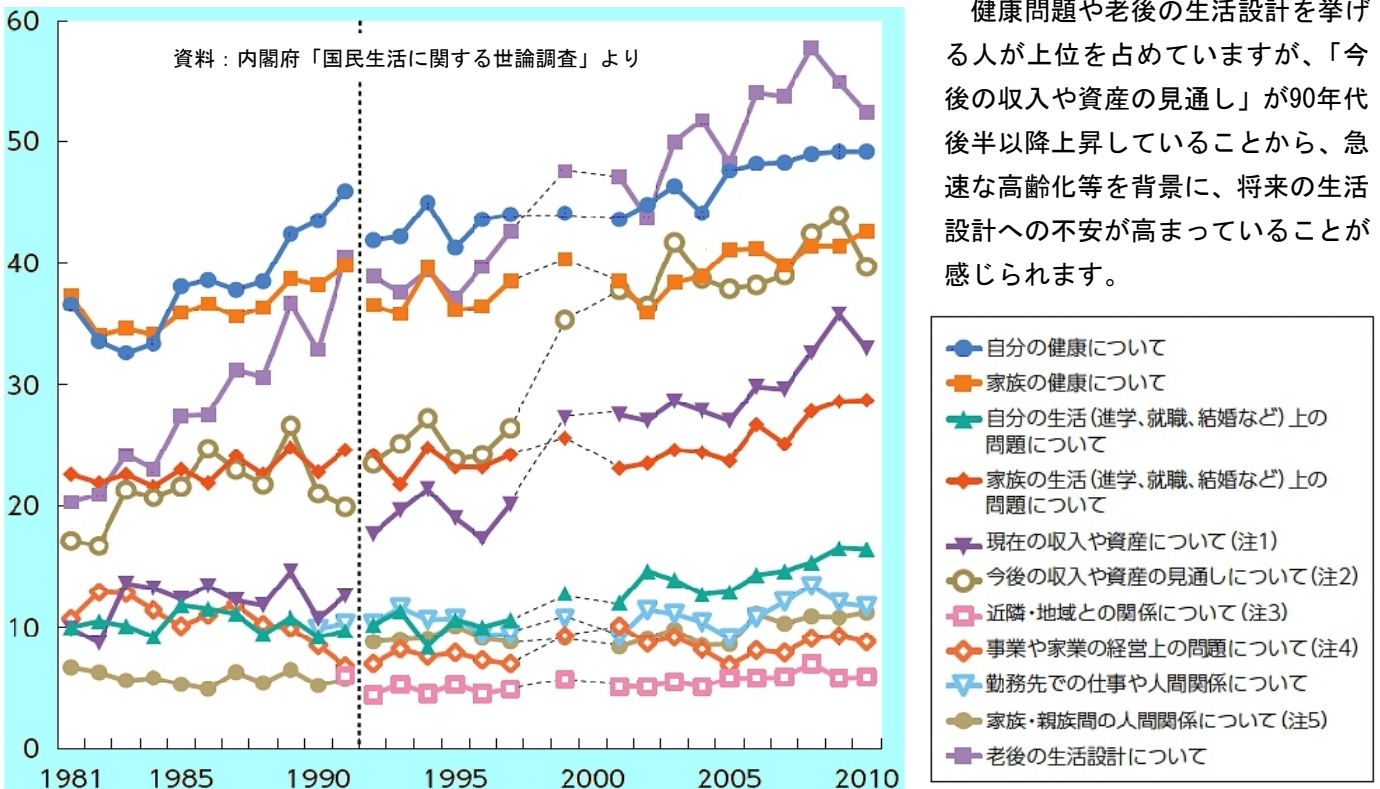
までおおむね55%程度でした。80年代後半から1990年代前半のいわゆるバブル経済期には40%台まで低下し、「悩みや不安を感じていない」という人の割合が高い年もあります。1995(平成7)年以降、上昇傾向を示し、近年では7割程度まで上昇しています。

では、悩みや不安の内容はどういうものなのでしょうか。1981(昭和56)年から2010(平成22)年までの

推移をみると、1990(平成2)年までは「自分の健康」「家族の健康」といった健康問題を挙げる人が最も多かったのですが、80年代から90年代にかけて「老後の生活設計」を挙げる人が急上昇し、2003年以降「自分の健康」に替わり第1位を占めるようになっていきます。また、1998(平成10)年以降「今後の収入や資産の見通し」が急上昇し、2010(平成22)年も約4割の人が不安に思っています。

健康問題や老後の生活設計を挙げる人が上位を占めていますが、「今後の収入や資産の見通し」が90年代後半以降上昇していることから、急速な高齢化等を背景に、将来の生活設計への不安が高まっていることが感じられます。

日常生活の不安や悩みの推移



(注) 1. 1991年以前は「日常の生活費について」 2. 1991年以前は「今後の生活費の見通しについて」 3. 1991年は「隣近所との人間関係について」 4. 1991年以前は「家業や事業の経営(農林漁業を含む)について」 5. 1991年以前は「家族との人間関係について」 6. 1981~1991年の調査と1992~2010年の調査においては設問が異なっており、時系列比較においては留意する必要がある。